



2014年4月 第12巻第4号

かく語りき—聖人の言葉

「すべては真我、すなわちブラフマンだ。聖人も罪人も羊も虎も、人殺しさえも、彼らに実在がある限り、ブラフマンに他ならない。なぜなら、他の存在はないからだ」

(スワミー・ヴィヴェーカーナンダ)

「水中の泡のように、この世は生じ、存在を続け、やがて至高の真我の中へと溶けて消えゆく。これが質量因であり、すべてを支えている」

(シュリー・シャンカラ)

今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・2014年6月の予定
- ・2014年3月の逗子例会 シュリー・ラーマクリシュナ生誕179周年祝賀会
- ・スワミー・メーダサーナンダ
- フィリピン協会の台風被災者支援活動の地・ガワイガワイを訪問
- ・スワミー・ヴィヴェーカーナンダ

と岡倉天心 生誕150周年記念セミナー・展示会、インド大使館にて開催

- ・2014年2月の逗子例会

「スワミー・ヴィヴェーカーナンダとシュリー・ラーマクリシュナの関係」スワミー・メーダサーナンダによる講話

- ・スワミー・ティヤガーナンダジー、来日

- ・スワミー・アトマプリアヤーナンダジー、来日

- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

7月の予定

- ・生誕日・

7月24日ラーマクリシュナーナンダ

- ・行事・

4日(金)日本ヨーガ療法学会研究総会 in 岐阜

5日(土)東京・インド大使館会

14:30~16:00 この日は通常より30分遅く始まります。

講演：バガヴァッド・ギーター (無料)

場所：[インド大使館](#) : 03-3262-2391

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428
6日、13日、20日、27日（日）ハタ・
ヨーガ・クラス 14:00～15:30

場所：新館アネックス

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

*体験レッスンもできます。

13日（日）**逗子定例会** 10:30～16:00

***今月は第2日曜に変更いたします。**

場所：逗子本館

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

19～21日夏期戸外リトリート

場所：高野山

25日（金）ホームレス・ナーラーヤナ
への奉仕活動

現地でのお食事配布など。

お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

26日（土）関西地区講話

13:30～17:00

場所：大阪研修センター

内容：「バガヴァッド・ギーターと
ウパニシャッドを学ぶ」

2014年3月の逗子例会

シュリー・ラーマクリシュナ生誕 179 周年祝賀会

2014年3月16日（日）、日本ヴェー
ダーンタ協会では逗子例会にてシュリ
ー・ラーマクリシュナ生誕 179周年祝
賀会を執り行いました。偶然にもこの
日はホーリー祭（Holi または Dol
Purnima と呼ばれ、色粉を塗ったり色
水を掛け合ったりする）であり、シュ
リー・チャイタニヤ・デーヴァの生誕

記念日でもありました。

午前6時、逗子本部本館の礼拝室にて
マンガラ・アーラティ、聖句詠唱、瞑
想が行われ、祝賀会のプログラムが始
まりました。



午前10時30分からのプログラムは多
数を収容できる別館（アネックス）に
場所を移して、プージャ（礼拝）、供物
奉獻、アーラティ、プシュパンジャリ

（花の奉獻）、護摩焚きが行われました。

続いて、スワミー・メーダサーナン
ダ（マハーラージ）が日本語版『ラー
マクリシュナの福音』第2版（改訂版）
が4年をかけて完成したことを発表し、
ご来賓の駐日ネパール連邦民主共和国
大使 マダン・クマール・バッターライ
閣下に同書をご披露いただきました。

ここでマハーラージは、シュリー・ラーマクリシュナが靈的修行を行ったドッキネッショル寺院を知っているかどうか以前大使に聞いたところ、大使は大変良くご存じで「百回ほど行ったことがあります」と仰ったという話を紹介しました。



その後マハーラージは、聖灰（ビブーティ）と色粉（アービル）を混ぜ合わせたペーストを参加者一人一人の額に小さく塗りつけました。



昼食のプラサードは、本館1階の食事室と2階の集会室でベジタリアン・カレーまたは魚のカレーとフルーツ、和菓子、インド菓子が振る舞われました。午後のプログラムが始まる2時30分まで、2階の図書室と1階の書籍販売コーナーは人でいっぱいでした。

午後の部では初めに聖句を詠唱し、日本語版『ラーマクリシュナの福音』の「第13章 師とM 1883年8月19日」から次の部分を輪読しました（以下、同書から引用）。

日曜日、満月後の第一日だった。シュリー・ラーマクリシュナは昼食後の休みをとっておられた。諸聖堂では真昼の供物奉獻が終わったところで、堂の扉はまだ閉まっていた。

午後早々に師は起き上がって、部屋の小さい寝台の上にすわられた。Mは師の前にひれ伏し、床にすわった。師は、ヴェーダーンタ哲学についてMに話しておられた。

師「自己知識のことが、アシュターヴァクラ・サムヒターの中で論じられている。非二元論者は『ソーハム』、つまり『私は至高の自己である』と言う。これは、ヴェーダーンタ派のサンニャーシーの見解だ。しかしこれは、いっさいのことは彼らみずからが行っていると感じている在家の人たちにとっては、正しい態度ではない。それは右のようなものであるのに、どうして彼らが『私はそれである、無活動の、至高の自己である』などと言うことができるだろう。

非二元論者によれば、自己は無執着である。善と悪、善徳と悪徳など、さまざまの対立する性質は、自分を肉体だ

と思っている者たちを確実に苦しめるが、なんとしても自己を傷づけることはできない。煙は間違いなく壁を汚すが、しかしアーカーシャ、つまり空間を汚すことはできないのだ。このクラスのヴェーダーンティストたちに追隨して、クリシュナキショレはよく『私はカー（アーカーシャ）である』と言っていた。偉大な信仰者であったから、彼がそう言ってもある程度は正しかった。しかし他の人びとには似つかわしくない。

だか、自分は自由な魂である、と感じることはたいへんよろしい。しじゅう、『私は自由だ、私は自由だ』とくり返していると人はほんとうに自由になる。これに反して、絶えず『私は束縛されている、束縛されている』とくり返していると、その人は確実に世俗に縛られる。『私は罪びとで、罪びとで』としか言わない馬鹿者は、ほんとうに世俗におぼれてしまうのだ。人はむしろ『私は神の御名をとらえた。どうして罪びとなどでありえよう。縛られるはずがないではないか』と言うべきである。

(Mに) あのね、きょう、私はひどく憂うつなのだよ。フリダイが手紙をよこして、とても身体のぐあいが悪いと言う。私はなぜそんなことでしょげるのだろうか。マーヤーのせいなのだろうか、ダヤーのせいなのだろうか

M はなんと答えてよいのか分からず、黙っていた。

(引用終わり)

続いて、マハーラージが心を込めて聖句を詠唱し、シュリー・ラーマクリシュナについて英語で講話を行いました。通訳は佐々木陽子氏でした。(この講話は次号以降のニュースレターに掲載の予定です。)

講話を終えるとマハーラージは、協会とヨーガスクール・カイラスの有志によるコーラス・グループに声を掛け、次のプログラムである音楽プログラムに移りました。音楽プログラムでは、初めにオリジナルの日本語の賛歌をコーラス・グループにご披露いただきました。

まずキーボードを演奏する泉田香穂里氏（シャンティさん）が協会の有志と一緒に前に出て、最初の賛歌の歌詞について説明しました。そして参加者全員に、ジャパムを行うつもりで歌詞の一部である「ラーマクリシュナ」の名を一緒に歌うようお願いしました。2曲目は「こころに咲く花」でした。両曲とも賛歌集の歌詞を見ながら皆で斉唱しました。続いて、もっと多くの人が前に出て歌えるよう祭壇の前と礼拝用の壇上に場所を詰めて並んでスペースを作り、ヨーガスクール・カイラスの有志の方々に賛歌を2曲ご披露いただきました。



次の音楽プログラムは、シタール奏者井上憲司氏とタブラ奏者ディネシュ・ドヨンディ氏によるアンサンブル演奏でした。礼拝用の壇上で演奏が始まる前にマハーラージは、「これからお二人に約45分間演奏していただいた後、皆でお茶をいただく予定です」とアナウンスしました。マイクが手渡されると井上氏は、演目についてのエピソードを紹介されました。井上氏は、インド在住のシタールの師に27年間毎年会いに行っているとのことで、この先生から「他に一番習いたいのは何か」と聞かれた時に、その日の演目であるラーガ（インド音楽の旋法）を学びたいと答えられたそうです。そして、このラーガを先生と一緒に2ヵ月以上かけて練習されたそうです。そうお話しにな

ると、井上氏はドヨンディ氏と一緒に50分にわたり素晴らしい演奏を披露されました。



演奏が終わると、マハーラージは見事な演奏を称え、タブラやシタールのような楽器をマスターするには何年も努力して練習を続ける必要があることを説明しました。「誰もが練習や実践をせずに目標を達成したがりません。音楽や舞踊などの古典芸術の追究も霊的生活も同じです。お二人には、今日こうして演奏していただきましたことにお礼を申し上げます。皆さん、もう一度お二人に大きな拍手を送りましょう！」マハーラージのこの言葉に、大きな拍手が湧き起こりました。

参加者全員に茶菓が振る舞われた後、夕拝、賛歌、短時間の瞑想を行い、一日のプログラムが終了しました。

スワミー・メーダサーナンダ、フィリピン協会の台風被災者支援活動の地・ガワイガワイを訪問

（エンリコ・コロombo氏寄稿）



ラーマクリシュナ・ヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・ザ・フィリピンズ (Ramakrishna Vedanta Society of the Philippines、以下「フィリピン協会」) では、2013年11月から2014年2月初めまで、セブ島北東端のサンレミジオ (San Remigio) 行政区にある村 ガワイガワイ (Gawaygaway) で台風被災者の支援活動を行いました。この村に暮らす365世帯のほとんどは貧しい人々で地元のプランテーションでサトウキビの伐採をして辛うじて生計を立てています。

ガワイガワイは、台風30号 (ヨランダ) による死傷者は報告されていないものの、住居の約80%が暴風により破壊・倒壊されました。また、小学校と高校、診療所、通いの聖職者が3週間毎にミサを執り行う教会も大きな被害を受けました。電線や、村に水を運ぶ主水道管も破壊されたため、数週間にわたり村には電気も水もありませんでした。

2013年11月30日、台風が去った直

後に、フィリピン協会のメンバーが村に入り、米750kg、イワシの缶詰1,835個、即席麺1,835パック、およびインスタントコーヒー1,835人分を支援食糧として配りました。その後、フィリピン協会の支援金を利用して、小学校の教室と、台風の暴風で屋根が飛ばされた高校の教室が数室修復されました。この支援金は、フィリピン国内での寄付金 (75,000 フィリピンペソ) と、ヴェーダーンタ・センター・オブ・シドニー (Vedanta Centre of Sydney、3,550 フィリピンペソ / 3,550 オーストラリアドル) および日本ヴェーダーンタ協会 (168,000 フィリピンペソ / 387,796 円) の信者の皆様からいただいた惜しみない援助によるものです。

2014年3月6日～10日のマニラ訪問中、フィリピン協会の霊的アドバイザーであるマハーラージはガワイガワイ自治体が主催する現地での感謝式典に招待されました。このためマハーラージは、8日 (土) の早朝に7名の信者と共にマニラから飛行機で、フィリピンのちょうど真ん中にあるセブに向かいました。約1時間のフライト後、セブ空港に迎えに来たさらに別の信者・友人の方々に合流しました。マハーラージとかなりの数の一行は、空港から2時間半車に揺られ、ガワイガワイに到着しました。

サンレミジオの町長である Mariano

Martinez 氏、「Barangay Captain (村長)」の Romeo Sumbi 氏、高校校長の Sheila Damayo 氏、そして小学校と高校の生徒らがマハーラージを温かく迎え入れ、フィリピン協会による寄付金で修理した教室を見せてくださいました。

その後、高校の敷地で感謝式典が行われ、生徒や先生、町長、村長、校長、マハーラージ、マニラとセブの信者・友人らが出席しました。この高校は、実際に支援活動のほとんどが行われた場所でした。



町長、数名の教師、校長が短いスピーチをし、フィリピン協会による村への支援に対し感謝の言葉が述べられました。町長の Mariano Martinez 氏と校長の Sheila Damayo 氏から、フィリピン協会代表のカルロ・コロombo氏に記念の盾が贈られました。

続いてマハーラージが、ガワイガワイの職員らに式典開催のお礼を述べ、出席者、特に生徒らに対して次のスピーチをしました。



「イエスは『神は皆を呼ぶが、彼の御業を為すために呼ばれた者たちは幸運である』と言われました。ですから、台風ヨランダの後に、ガワイガワイの村と村民の方々、特に小学校と高校のために神様の御業を行うことのできたフィリピン協会は幸運でした。私たちは、支援を必要としているの方々のお手伝いをする機会に恵まれましたことを神様に感謝しなければなりません。

こちらの校長先生であられる Sheila Damayo 氏がこう仰いました。『台風で大きな被害を受けた高校をどうか再建できますように、と神様に必死に祈り、泣きながら救いを求めました。すると救いが来たのです。それも、ヒンドゥー教関連の NPO (非営利組織) であるフィリピン協会からです』

そうです、私たちはヒンドゥー教徒ですがイエス・キリストなど他宗教の預言者や霊性の偉人、他宗教の聖典を敬っております。私たちのお寺では、ヒンドゥー教の聖典だけでなく、聖書、

コーラン、仏陀の教えも読んでおりますし、クリスマスや仏陀の誕生日もお祝いします。

最後に本日この式典にお集まりの皆さんに、特に生徒の皆さんに、これから申し上げる簡単な言葉を人生の指針としてぜひ心に留めていただきたいと思います。

一つ。人の役に立つよう心がけること。
二つ。自分の利益を顧みず、見返りを求めず、人のために働くこと。『無私は神である』のを忘れないでください。

三つ。困った時はいつでも神に祈ること。必ず救われます。

四つ。自分の神と預言者を敬い、同時に他の神や預言者、聖典に敬意を払うこと。

以上です。皆さんどうもありがとうございました。Salamat Po (タガログ語のお礼の言葉)

式典の最後に町長がスピーチをされ、「事前に学校側から『インスピレーションを与えるような』話をして欲しいと言われていたのですが、スワミー・メーダサーナンダ師のお話に私自身が逆にインスピレーションをいただきました」と仰いました。

大変友好的な雰囲気の中、出席者に合わせて食材や調理法を考慮したフィリ

ピン料理が振る舞われ、マハーラージの一行はおいしいランチを楽しくいただきました。そして、再び長時間車に揺られてセブに戻りました。

翌3月9日(日)の午前に一行は飛行機でマニラに戻り、午後、マハーラージはマニラ・センターで予定通り講話を行いました。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダと岡倉天心 生誕 150 周年記念セミナー・展示会、インド大使館にて開催

2014年3月26日(水)、東京・インド大使館のインディア・カルチュアル・センター (India Cultural Centre、以下 ICC) のホールで、日本ヴェーダ学会、タゴール生誕150周年記念会、ディスカバー インディア クラブ (Discover India Club、以下 DIC) の共催により、「スワミー・ヴィヴェーカーナンダと岡倉天心 生誕 150 周年記念セミナー・展示会」が開催されました。

この意欲的なプログラムの開催時間は午後1時30分~7時で、展示会の一般公開に先立って行われました。展示会では、多数の写真、印刷物、ポスター、書籍などが展示され、その中には日印関係史、「近代日印関係の先駆者スワミー・ヴィヴェーカーナンダと岡倉天心」の写真、スワミー・ヴィ

ヴェーカーナンダの生涯と教えやメッセージを描いた二カ国語版ポスターなどもありました。

セミナー



午後2時、当日の講演者でもあるマハーラージとヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・ボストンのスワミー・ティヤガーナンダジーによるヴェーダの祈願でセミナーが始まりました。

続いて、駐日インド大使ディーパ・ゴパラン・ワドゥワ閣下が「開会の言葉」を述べられ、「近代印日関係の先駆者」らを称えるイベントをこうして開催し、インドとインド文化に対する理解を日本で深め、アジアの二大国家である日印間で相互理解と文化的結び付きを深めることができることに、喜びと感謝の念を表明されました。

最初のスピーチは、東京大学の冨澤かな博士による「Swami Vivekananda Concept of Religious Harmony (スワミー・ヴィヴェーカーナンダの説いた宗教的調和の概念)」でした。



続いて、スワミー・ティヤガーナンダジーがインドと西洋、東洋への「Impact of Swami Vivekananda (スワミー・ヴィヴェーカーナンダの影響)」をテーマに話されました。



そして、上智大学の平野久仁子博士が「The Humanism of Swami Vivekananda (スワミー・ヴィヴェーカーナンダのヒューマニズム)」についてご自身の印象をお話しになりました。その後、マハーラージが「Swami Vivekananda and Okakura Tenshin (スワミー・ヴィヴェーカーナンダと岡倉天心)」をテーマにスピーチをし、スワミージーと二人の欧米女性信者について、そして彼らと岡倉天心の交流を生んだ出来事についてお話ししました。



短い休憩をはさんで、天心の孫の岡倉登志氏が「Kakuzo (Tenshin) Okakura: Dispatcher/Originator of Japanese culture to overseas (岡倉覚三〈天心〉：日本文化の海外への発信者・創始者)」と題したスピーチをされ、ボストン美術館で働いたり、訪印してタゴールと知り合ったり、スワミー・ヴィヴェーカーナンダと旅に出たりするなど、天心は日本文化の発信者であったという意見を述べられました。



スピーチの後は質疑応答が行われ、その後 DIC 会長の Rabinder Malik 氏が謝辞を述べられました。



再び休憩を取った後、Pranay Ray 氏による、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの生涯とメッセージについてのドキュメンタリー映画が上映されました。そして午後 6 時からインドの軽食が振る舞われました。



セミナーには、大学教授、学者、研究者などを中心に約 100 名が出席しました。

(次号以降のニュースレターに、上述のスピーチ原稿を掲載する予定です。)

展示会

セミナーの展示会は日本ヴェーダリータ協会が企画・準備を行い、ICC ホールの階下にある、ホール控え室と会議室の間の広いギャラリーに展示物が設置されました。展示会は、セミナー参加者が閲覧できるようセミナー開催日である 3 月 26 日に公式に開始されましたが、一般公開は 4 月 3 日～6 日で、インド大使館正面にある皇居の千鳥ヶ淵沿いにある桜並木に多数の花見客が来訪する時期とちょうど重なりました。展示会の開催時間は毎日午前 11 時 30 分～午後 5 時で、来場者は約 3 千人でした。

展示会場の最初のセクションには、印日関係の深い文化的結び付きを象徴する、インドと日本の様々な写真が展示されました。次のセクションには、スワミー・ヴィヴェーカーナンダと岡倉天心の歴史的な写真、ラビンドラナート・タゴールやシスター・ニヴェディターなどスワミーと縁（ゆかり）ある人々や場所の写真で、スワミーの写真の多くにはスワミーの言葉が添えられていました。次のセクションには、インドから入手した、スワミーの生涯と教えやメッセージを紹介する30枚のポスターが展示されました。さらにその先のセクションでは、マハトマ・ガンディーやロマン・ロラン、ラビンドラナート・タゴール、レフ・トルストイ、マックス・ムラーナーなどの著名人からのコメントが紹介されました。その次のセクションには、諸言語に翻訳されたスワミーの著書、スワミーに関する学術論文などが展示されました。そして、その隣では、スワミーに関するドキュメンタリー映画（日本語字幕）が途切れなく繰り返し上映されていました。

販売コーナーには、スワミーに関する協会発刊の日本語訳書籍やDVDが多数並べられました。

来場者のほとんどは展示の内容に驚き、感動していました。ある年配の女

性は、「この年になってヴィヴェーカーナンダさんを知るなんて、もっと早く知っていたら息子の子育てに役立っただろうに」と仰いました。また、ある小学生はスワミーの人柄や言葉にとっても感動したと言いました。

2014年2月の返子例会

「スワミー・ヴィヴェーカーナンダとシュリー・ラーマクリシュナの関係」 スワミー・メーダサーナンダの講話



シュリー・ラーマクリシュナは、あるビジョンを得ました。それは、インドの聖典で称えられている七聖賢（Saptarishi）が瞑想に没入しており、そのうちの一人がスワミー・ヴィヴェーカーナンダであるというものでした。ヴィヴェーカーナンダの母親は、娘ばかりで息子に恵まれませんでした。そこで、シヴァ神に祈りを捧げて家族の誉れとなる息子が授かるようお願いし、また、聖地ヴァラナシに住む親戚にもヴィレシュワラ・シヴァを礼拝するよう頼みました。すると、シヴァ神が自分の息子となって生まれると

答えた夢を見ました。シュリー・ラーマクリシュナは後に、ヴィヴェーカーナンダがシヴァの化身であるビジョンも得た、とよく言っていました。このようなことから、スワミーは七聖賢ナラの化身として、またシヴァの化身として生まれてきたと考えてられています。

化身は、元の存在・元の神が有する特徴を備えています。例えば、ヴィシュヌの化身は、ヴィシュヌの性質や特徴を備えています。ですから、スワミーには聖賢ナラと神シヴァの両方の特徴が備わっていました。ナラの特徴には、知識、霊的な愛、強い信仰心、サマーディーなどがあります。シヴァの特徴は、瞑想、サマーディー、放棄、慈悲心などで、短気な面もありますがその怒りは静めるのがたやすく、いったん怒りが静まるとすぐに慈悲深い面を表します。ナラとシヴァには共通した性質もあります。スワミーにも、知識、霊的な愛、強い信仰心、サマーディー、放棄、慈悲心などの性質が見られ、短気でしたが、怒った次の瞬間には心に愛と慈悲が満ちていました。

シュリー・ラーマクリシュナには出家の弟子が他にもいましたが、ナレンドラナートには特別な敬意を払っていました。自分に仕える召使のような仕事は、通常、ナレンにはさせませんでした。それだけでなく、誰かがナレンを

批判すると、それはシヴァを批判するのと同じだと言ってその人を叱りました。時には、ナレンと友達であるかのようにも振る舞いました。また、ナレンが理想からそれていると指摘する人がいると、そのような話を信じようとしませんでした。スワミーは、両親が自分を信じようとしなくてもシュリー・ラーマクリシュナはいつも信じてくれたと言ったことがあります。実際、師がスワミーに対して示した愛の大きさや深さは、両親の愛でも適いませんでした。

またシュリー・ラーマクリシュナは、ナレンの成長のためにナレンに大いに自由にさせ、ナレンが自信を強められるような状況も作ってやりました。ナレンという岩を礎として、将来、師の、すなわち神の組織が設立されることを知っていたからです。ナレンに、霊的訓練や、ニルヴィカルパ・サマーディーなどの霊的経験も数多く授けました。ニルヴィカルパ・サマーディーの状態に達すると、瞑想と瞑想者、瞑想の対象の区別は全くなり、これら三つが一つになります。シュリー・ラーマクリシュナの恩寵により、ナレンはこのサマーディーを経験しました。

時折、師はナレンを試すこともありました。一度、ナレンに超能力を授けてやろうかと言ったことがあります。お金や名声、権力や地位を得たくて、超

能力を欲しがると人は数多くいます。ナレンは師に、超能力は悟りを得る助けとなるかと尋ねました。「いや、全く助けにならない。それどころか妨げとなるだろう。霊的経験の邪魔になる」と師が答えると、ナレンは「それならば、今は必要ありません。そのような力は自分で得た上で使うかどうか決めたいです」と答えました。

別の折には、師はナレンと口をきくのをやめました。それまでナレンに対して愛情と気遣いを常に見せていたのに、急に無視し始めたのです。他の信者には話しかけても、ナレンの存在を認めることすらしませんでした。遂に、師はナレンに対し、自分が話しかけさえしないのに、なぜ来続けるのかと尋ねました。ナレンは即座に、師の話聞きに来ているのではなく、師が大好きで会いたいから来ているのだと答えました。これを聞くと師は大変喜んで、実は、特別扱いに慣れてきたナレンに特別扱いをしなくなったら、来なくなるかどうか試したのだと白状しました。

一方で、霊的に完成した師であることをナレンに証明していた師に対し、ナレンは試すことをやめませんでした。時には、師の理解は正しくなく、師が言ったことはこの誤った理解から生じる想像を基にしていると、率直に言うことさえありました。「完全に確信できるまでは、あなたの仰ることを認める

ことはしません」とナレンは宣言しました。信者の態度には二通りあります。一つは、霊性の師の言うことを真実だと受け入れる態度で、たいていの信者はこのタイプです。もう一つは、「あなたの言うことを私自身が本当に理解して実感するまでは、信じません」というタイプです。ナレンは後者のタイプでした。

ご存知の通り、シュリー・ラーマクリシュナは、お金に触れることすら耐えられないと言ったことが何度かあります。ある日ナレンは、師のベッドの下にこっそり硬貨を隠しました。師は部屋に戻って来ると、お金が隠れていることを知らず、ベッドに触れました。その途端、まるで感電でもしたかのように飛び退きました。師はすぐに、ナレンが自分を試したのだと気付きましたが、迷惑に感じたり怒ったりすることはありませんでした。師自らナレンに、自分の言うことを試しなさいと言っていたからです。

また師は、不純な性質の人が運んできたコップから水を飲むことはできないと言っていました。ある時ナレンは、師や他の人と一緒にコルコタに行きました。霊的な話をしばらくした後、師は喉が渴きました。その場にいた、いかにも心の清らかそうな人が水の入ったコップを持ってきましたが、師はそれを飲むことができませんでした。次

に他の人が持ってきたコップから、師は水を飲みました。この行動を不思議に思った人が何人かいたので、ナレンは後で理由を確認しようと言いました。集まった人たちのほとんどが帰った後、先ほどの心の清らかそうな人の弟に、「お兄さんはどんな人なのですか」と誰かが尋ねました。弟は少しためらいながら、「兄はあまり善い人間ではありません」と答えました。こうして、師の言葉はやはり本当だったと分かりました。こういうことが何度もあった後、ナレンはやっとシュリー・ラーマクリシュナを自分のグルとして認めたのです。

ナレンが通っていたコルコタの大学で、キリスト教徒であるベンガル人が教えていました。ナレンの性格や知性はどの教師にも高く評価されていました。ナレンがドッキネッシュョルのカーリー寺院の祭司の弟子になったという噂が広まると、このキリスト教徒の講師は、これ程優秀な生徒が寺の祭司をグルと認めるなんて、と大変驚き、悩みました。ある日ナレンを見かけると、この講師は近づいて行って、カーリー寺院の祭司をグルとしたのは本当かと尋ねました。ナレンが本当ですと答えると、講師はその理由を聞きました。ナレンは、「この祭司をいろいろと試したのですが、結局、グルと認めざるを得ませんでした」と答えました。

この時、ナレンはシュリー・ラーマクリシュナを自分のグルと認めていましたが、師がアヴァターラ（神の化身）であるという考えはまだ受け入れていませんでした。他の信者は全員、師をアヴァターラと認めていましたが、ナレンはまだでした。シュリー・ラーマクリシュナ自身が、自分を「アヴァターラだと多くの人が言っている」と口にしており、ナレンにもそう思うかと尋ねたそうです。ナレンは、「自分でそれを直接体験するまでは、そのような考えは受け入れません」と答えました。

師が肉体を去る数日前、衰弱して何も食べられなくなり血を吐いていました。師のベッドの傍らに立っていたナレンに、ふとある考えが頭をよぎりました。「この人は本当に神の化身なのだろうか。もしこのような健康状態でも自分は神の化身だと仰るなら、そうだと認めよう」ナレンが答えを見出せないでいると、ベッドに病に伏しているラーマクリシュナの唇がゆっくりと動くのに気付きました。師は言いました。「過去世でラーマやクリシュナとして生まれた神が、今ラーマクリシュナとしてまさにこの肉体で生きている。ただし、お前のヴェーダーンタの観点ではそうではないよ」なぜヴェーダーンタではそうではないのでしょうか。ヴェーダーンタでは、神の特別な化身をいっさい信じず、誰もが皆ブラフマンの現れだからです。

師は肉体を去る少し前に、ナレンと二人だけになりたいと言いました。師がナレンの目を見つめると、二人は意識を失ったようになりました。しばらくしてナレンに意識が戻ると、師が泣いているのが見えました。「なぜ泣いているのさですか」と尋ねられると師は、「持っていた力はすべてお前に与えたよ。この力を武器に、すべての人のために善を為しておくれ」とナレンに頼みました。

それよりさらに前のある時、師は紙切れにベンガル語で、「ナレンは人びとを教え導くようになる」と書いたことがあります。ナレンは反論しましたが、師は「お前は必ずそうなる」と言いました。師が肉体を去った後、師の使命を引き継いだのはスワームージーでした。師はナレンに、主に2つのことをするように言いました。一つは、他の出家の弟子たちを導いて組織を発足させること。もう一つは、師の普遍の教えを説くこと。実際に、師が肉体を去った後、ナレンと他の弟子たちはバラナガルに最初のラーマクリシュナ・マト（僧院）を設立し、ナレンドラナート・ダッタはスワームー・ヴィヴェーカーナンダとなりました。スワームージーは様々な方法で他の出家の弟子らを訓練しました。後に、ラーマクリシュナ・マトはアランバザールに移設されました。

1897年、海外から戻ったスワームージーは、二つの目的と共にラーマクリシュナ・ミッションを創設しました。二つの目的とは、真我を悟ることと世界のために善を為すこと（Atmano mokshartham jagat hitaya cha）です。後に、常設のラーマクリシュナ・マト・アンド・ミッションの本部が、ドッキネッショルからほど近い、ガンガーの岸辺の村ベルルに1898年に設立され、それが現在のベルル・マトとなりました。

スワームージーは、師の生涯において体現されたヴェーダーンタを説くために西洋にわたりました。多くの困難に遭いながらも努力してそれを乗り越え、ヴェーダーンタの教えを西洋に伝えたのです。後にスワームージーは、「このシュリー・ラーマクリシュナという人が本当はどのような人だったのか分からない。が、これだけは分かっている」と言いました。「困ったことがあると師が必ず現れて私に道を示してくださった。危険があるといつも、師が守ってくださった。問題があるといつも、師が解決してくださった」

面白いことに、多くの人知らないことなのですが、万国宗教会議がシカゴで開催されるのを聞きつけた南インドの弟子たちは、スワームージーにヒンドゥー教の代表として参加するように

頼みました。彼らは、このような重要なイベントにヒンドゥー教の代表者として参加するのはスワームージーが最適であると思ったのです。この時、スワームージーはこうしたイベントに無関心で、ヒンドゥー教の代表としてシカゴに行く計画もありませんでした。実は、スワームージーは行くのをためらっていました。当時、ヒンドゥー教の僧侶がヴェーダーンタを説くために外国へ旅することは非常に稀で、歴史上前例もありませんでした。

スワームージーは、このような旅に出るべきかどうか、メリットとデメリットを考えていました。ちょうどその時スワームージーは南インドのある信者の家に滞在していました。この信者は後に、スワームージーは一人で部屋にいたはずなのに、部屋からは二人の人が激しく議論している声ははっきり聞こえたと言っています。このような議論が聞こえてくるのが幾晩か続き、信者は好奇心をそそられてスワームージーに聞いてみることにしました。「スワームージーは一人で部屋にいらっしゃるのはよく分かっていますが、二人で話し合う声が聞こえます。どうなっているのですか」スワームージーはすぐには答えませんでした。何度かせがまれこう言いました。「私のグル（シュリー・ラーマクリシュナ）が目の前に現れて、万国宗教会議に私が参加して成功を収めるように手はずを整えたと

仰ったのです。私が行かないと言ったので、言い合いになり、私が行くと言うまで毎晩議論になったのです」



皆さんの中で、このことを聞くのはこれが初めてだという人がほとんどでしょう。スワームージーが世界に向けて、師の教えである「普遍の宗教ヴェーダーンタ」を説きに行くよう、シュリー・ラーマクリシュナが万国宗教会議を準備されたのです。この素晴らしい土台を作られたのが師ご自身であると、スワームージーに仰ったのです。万国宗教会議にスワームージーが参加なさったことで世界の宗教史がこれ程までに変わった理由がこれで分かりますね。このことから、神様にはご自身のやり方や計画があり、それが示されるまで私たちには見当も付かない、というのがはっきりと分かります。

スワームージーが欧米でヴェーダーンタを説いていた時、毎週四つから五つの講話を行い、日によっては講話を2回行うこともありました。講話をしすぎてテーマに尽きてしまい、新たに話

すことがもうないと感じることもありました。そのような時には、スワームージーの部屋から奇妙な声がしばらく聞こえてきた、とスワームージーが滞在した家の信者から報告されています。その声はスワームージーのものではなかったそうです。では誰なのでしょう。師がスワームージーに、次の講話で話すべき論点を与えていたのです。

インスピレーションに満ち胸を打つ講話でスワームージーが有名になり人気を集めるようになると、キリスト教の伝道者らは反感を抱き嫉妬するようになりました。この理由は、キリスト教伝道組織の中にはインドで活動を行うための募金を裕福な人びとから集めている団体があったからです。彼らはインドについて、インド人は野蛮人で迷信を信じており、インドには真の宗教がないから、キリスト教を伝道して改宗させ暗闇に光をもたらすのだ、と言っていたのです。この目的のために裕福なアメリカ人は多額の寄付をしていたのです。しかし、スワームージーの講話を聞いたり著書を読んだりして、こうした団体の宣伝や教えが嘘で、インドの霊的文化をほとんど理解していないということに気付き始めたのです。

スワームージーのように教養ある優秀な人間が迷信深い野蛮人の国に生まれ育つことなどあるだろうか、多くの人が疑問を持つようになり、こうし

た宗派に寄付するのをやめました。寄付が減ったためにこれらの宗派の聖職者らは非常に腹を立て、中には怒りのあまりスワームージーの死を画策した者さえいました。あるディナーの席で、スワームージーに毒入りの飲み物が出されたのです。スワームージーは何となく飲まない方がいいような気がしていたところ、ラーマクリシュナが現れて飲まないようにと言ったのです。スワームージーはそれを飲まず、ディナーの主催者には何も言いませんでした。こうして師は、スワームージーが危険にさらされたり困ったりすると守ってくださったのです。肉体を去った後も、いつもスワームージーのそばにいて面倒を見ていたのです。

スワームージーがアメリカへの渡航直前に南インドにいたとき、母親が亡くなった夢を見ました。スワームージーは動揺して真相を確かめたいと思いましたが、当時は通信が難しい時代でした。スワームージーはベンガル人の信者マンマタ・バブーの家に滞在していましたが、この夢でスワームージーがひどく心配しているのを知ったマンマタ・バブーは、コルカタに電報を送って情報を集めました。また、出航が近づいていたので、マンマタ・バブーはスワームージーに、霊能力者に相談してみたらどうかと勧めました。数名の信者らがゴヴィンダ・チェッティという霊能力者を探しに行きました。

チェッティは、全身灰まみれの助手数人と火葬場に住んでいました。信者らの一行が近づいていっても霊能力者は目もくれませんでした。一行が立ち去ろうとすると「力になってやろう」と大声で言いました。そして突然トランス状態になり、「お前の母親は大丈夫だ。すぐに外国へ向けて旅立ち、ヴェーダーンタを説き広めよ。お前のグルがいつもそばにいて守ってくれている」と言いました。

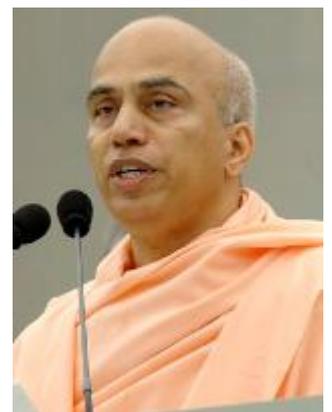
スワームージーは普遍の宗教であるヴェーダーンタを説き広めましたが、近い信者との対話では、ヴェーダーンタよりもシュリー・ラーマクリシュナについてよく話しました。『ある弟子の日記 (Swami Sishya Samvad)』という本があります。これはある僧侶とその弟子との対話で構成されていますが、実は、スワームージーとその弟子のシャラト・チャンドラ・チャクラヴァティの対話です。シャラト・チャンドラはサンスクリットの優れた学者で、「Murta Maheswara」という歌を作曲した偉大な信者であり、スワームージーからイニシエーションを授かりました。シャラト・チャンドラはこの本の中でこう言っています。「スワームージーは、講話を行うときはたいていヴェーダーンタについて話されますが、個人的にお話しになるときはシュリー・ラーマクリシュナについてもっば

ら話されますね。なぜなのでしょう」

スワームージーは答えませんでした。が、その答えは、シュリー・ラーマクリシュナがヴェーダーンタを体現されていたからです。すなわち、ヴェーダーンタは抽象的なものですが、具体的なヴェーダーンタを知りたいのであればシュリー・ラーマクリシュナを見なさい、ということなのです。前述のように、スワームージーは、師が神の化身かどうか疑っていました。しかし、私たちが夕拝で歌う「Om Hrim Ritam Tvam Achalo」をスワームージーが作曲された時、歌詞には「Sthapakaya cha dharmasya, sarva dharma-svarupne; Avatara-varsthaya, Ramakrishnaya te namah」とありました。つまり、スワームージーは師をアヴァターラと認めていただけでなく、神の化身らの中で師こそが最も偉大であると宣言したのです。

スワームー・ティヤガーナンダジー、来日

ヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・ボストン (Vedanta Society of Boston) の長であられるスワームー・ティヤガーナンダジーが、3月



25日～31日、日本ヴェーダーンタ協会に来訪されました。ティヤガーナンダジは東京・インド大使館で開催された「スワミー・ヴィヴェーカーナンダと岡倉天心 生誕 150 周年記念セミナー・展示会」に出席され、「Impact of Swami Vivekananda on the Philosophical and Religious Ideas of the World: Present Scenario and Future Prospect (世界の哲学・宗教思想にスワミー・ヴィヴェーカーナンダが与えた影響：現在のシナリオと今後の展望)」というタイトルで、啓蒙的なスピーチを行いました。

(ニューズレター5月号に、上述のスピーチ原稿を掲載する予定です。)

スワミー・アトマプリアヤーナンダジ、来日



インド西ベンガル州ベルルに数年前に創設された大学、ラーマクリシュナ・ミッション・ヴィヴェーカーナンダ・ユニ

バーシテイ (Ramakrishna Mission Vivekananda University, RKMVU) の副学長であられるスワミー・アトマプリアヤーナンダジが、4月6日～8日に日本ヴェーダーンタ協会に来訪されました。アトマプリアヤーナンダジは、NGO (非政府組織) の「ありがとうインターナショナル」の理事会に出席するた

めに東京に来られました。同組織の活動についての詳細は、次のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.arigatouinternational.org>

忘れられない物語

団結は力なり

昔々、ハトの王様が群れを率いて、食べ物を探して飛んでいた。ある日、長い距離を飛び続けて皆疲れ切っていたが、王様に励まされ、もう少し先まで行ってみることにした。一番小さいハトがスピードを上げると、バニヤンの木の下に米粒が散らばっているのが見えた。そこで、皆で地面に降り、米粒をついばみ始めた。

突然、上から網が落ちてきて、皆罨に掛かってしまった。猟師が大きなこん棒を手にして近づいてくるのが見えた。ハトたちは必死に羽ばたき何とかして網から出ようとしたが、無駄だった。その時、ハトの王様に考えがひらめいた。「皆で一緒に羽ばたいて、網ごと飛び立つのだ」王様は言った。「団結すれば大きな力になるぞ」

ハトはそれぞれ網をくわえると、網ごと一斉に飛び立った。猟師は呆然と見上げた。後を追おうとしたが、ハトの群れは空高く飛び上がり丘や谷を越え

ていった。群れは、寺のたくさんある町の近くの丘に降り立った。ここに、あるネズミが住んでいた。このネズミはハトの王様の友人で信頼がおけ、力になってくれると思われた。

大きな音をたてて何かが近づいてくるのが聞こえると、ネズミは身を隠した。ハトの王様がネズミに優しく呼びかけると、ネズミは喜んで王様を出迎えた。王様はネズミに、罾に掛かったことを説明した。「君の歯で網を噛みきって、我々を自由にしてもらえないだろうか」

ネズミはハトの王様の頼みを引き受け、「まず王様から自由にして差し上げましょう」と言った。しかし王様は言った。「まず私の民を自由にしてやってくれ。私は最後でよい」ネズミは王様の気持ちが分かったので、言われた通り、網を食いちぎってまず皆を、続いて王様を網から自由にしてやった。

ハトの群れはネズミに礼を言うと、再び皆で飛び立っていった。一つに団結した群れには、力がみなぎっていた。

教訓：「力を合わせれば、ますます強くなる」

(www.moralstories.org より)

今月の思想

「疑いとは孤独な痛みである。孤独のあまり、信仰が自分の双子の兄弟であるのに気付かない」

(ハリール・ジブラーン)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp